

生長の家について

概要

1930年に谷口雅春氏によって創始された。現在の総裁は、雅春氏の娘婿の谷口清超氏の二男・谷口雅宣氏。2008年10月28日に父・清超氏が89歳に死去したため、立教記念日の2009年3月1日付で雅宣氏が第3代生長の家総裁に就任した。

公称信者数は約151万人、内日本には約52万人（2014年12月31日現在）。総本山として龍宮住吉本宮が長崎県西海市に、別格本山として宝蔵神社が京都府宇治市に各々ある。一般向けの月刊誌（「普及誌」）としては、「いのちの環」、「白鳩」、「日時計24」の3誌を日本教文社が月1回発行、世界聖典普及協会を通して頒布している。機関紙としては「聖使命」、「生長の家」がある。いずれも月1回発行である。信者組織としては、男性対象組織「相愛会」（1万人）、女性対象組織「白鳩会」（6万人）、12歳～39歳の男女青年組織「青年会」（3千人）が基本の3組織とされている。

系譜

初代 谷口雅春（創始者）

戦前：極端な国粹主義を主張

戦後：新憲法否定、明治憲法に回帰を唱える

2代 谷口清超（創始者の娘婿）

極右路線を修正、政治活動から撤退

初代崇拜派が分裂→日本会議の源流

3代 谷口雅宣（2代の子・創始者の孫）

リベラルな自然環境志向路線に移行

自民党を批判

最近の活動

2011年には、教団として脱原発を支持する方針を明確にした。13年には本部を東京都から山梨県に移動し、「自然とともに伸びる運動」の象徴的な建物として「森の中のオフィス」を建設、国際本部とした。さらに、15年になると、青年会がこれまでの「青年会宣言」および「青年会綱領」を規約から削除し、より環境主義的な色彩の強い「生長の家青年会ヴィジョン」を制定した。以降、生長の家は環境重視の路線を強めている。

生長の家から保守的な教義がなくなったわけではない。現在でも、生長の家の講習会その他の行事では、開会の際に国歌斉唱が行われる。

16年6月9日、生長の家は、7月の参議院選挙において、安倍首相の政治姿勢に反対の意思表示をするために、組織として「与党およびその候補者を支持しない」ことを決定した。また、元生長の家信者らの関与する政治組織・日本会議が政権運営に強大な影響をおよぼしている可能性があるとして、遺憾の意と強い危惧を表明した。